

お知らせ

教室のご案内

平成24年より教室を受けられた場合、健康保険適用となりますので、初・再診料・集団指導料の一部負担金をお支払いいただくことになります。ご了承くださいませようお願いいたします(飲食のある場合は別途材料費をいただきます)。

〈教室参加の流れ〉

- ① 外来または入院病棟で予約を入れて下さい。
- ② 参加当日は直接、教室会場に入ってください。
- ③ 診察券を教室の受付に渡してください。
- ④ 教室終了後、自動支払機にて清算をしてください。

◆ 糖尿病教室

【開催日時】

平成26年7月11日(金)、8月15日(金)、
9月12日(金)、10月10日(金)
9:00~13:00

【場所】

伊勢赤十字病院 5階 会議室7

【参加費】

500円(昼食あり)

【お問い合わせ・申し込み】

伊勢赤十字病院 糖尿病・代謝内科
外来 3番受付

◆ 肝臓病教室

【開催日時】

平成26年9月6日(土) 10:00~14:00
「C型肝炎の診断と治療(日常生活と肝臓病食)」

【場所】

伊勢赤十字病院 5階 会議室7

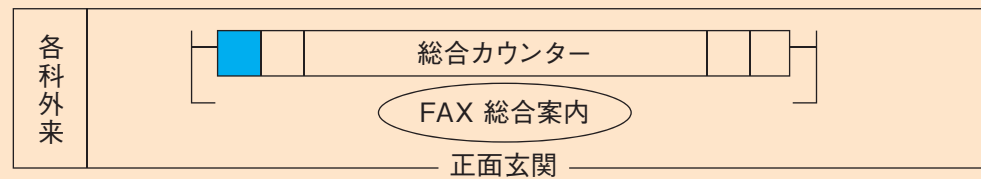
【参加費】

500円(昼食あり)

【お問い合わせ・申し込み】

伊勢赤十字病院 肝臓内科
外来 3番受付

【5階 会議室7のご案内】



ブルーのエレベーターにて5階へお上がり下さい。5階受付にて会議室7をご案内します。

Nisseki News

— 日赤ニュース —

2014年 No.53

無料・ご自由にお持ちください

理 念

人道に基づき赤十字病院として質の高い医療を提供します

基本方針

1. 人道を掲げる赤十字の原則に基づき、人々の健康と生命の尊厳を守ります
2. 人権を尊重します
3. 個人情報保護に万全を尽くします
4. 医療水準の向上に努め、最善の医療を提供します
5. 地域医療機関との連携により、個人に合った適切な医療を提供します
6. 救急医療の充実に努めます
7. 災害時の医療救護や国際救援に貢献します
8. 健全な運営に努め、未永く地域社会に貢献します

トピックス

脳卒中センター

部門紹介

救命病棟

病院の動き

新入社員入社式

地域とまっとクロス

ブラック・ジャックセミナー開催

お知らせ

教室のご案内



日本赤十字社 伊勢赤十字病院

ちょっと役立つレシピ

今回は「桜蒸し」を紹介致します。桜蒸しは桜葉の香りがして、薄味にしても美味しく頂けます。

〈材料(4人分)〉

- 白身魚…1切れ(60g)×4切れ ● 道明寺粉…80g
- 塩漬桜葉又は塩漬桜花…4枚 ● 塩・薄口醤油・みりん・片栗粉・だし汁

1. 魚の切り身に軽く塩(一撮み)をする。
2. 道明寺粉を水に軟らかくなるまで浸しておく。
3. 桜葉は一度水に潜らせ塩分をとる。
4. 器に桜葉を置き、その上に魚の切り身を置き、その上に軟らかくした道明寺粉を被せる。
5. 器に蓋をして蒸し器に入れ、魚に火が通るまで蒸す(20分位)。
6. だし汁200ccに塩小さじ1杯、薄口醤油小さじ2杯、みりん小さじ2杯を加え沸騰させたら水溶き片栗粉を入れ軽くとろみをつける。
7. 蒸しが終わった魚に6のあんをかける。





より迅速な処置と先進の体制を実現。 地域の脳卒中医療の核となる拠点。

脳卒中センター

写真左:宮 史卓センター長、写真右:柴田 益成副センター長



脳卒中センター:
脳卒中治療専門の設備を有した病室(SCU:脳卒中
ケアユニット)6床を有している

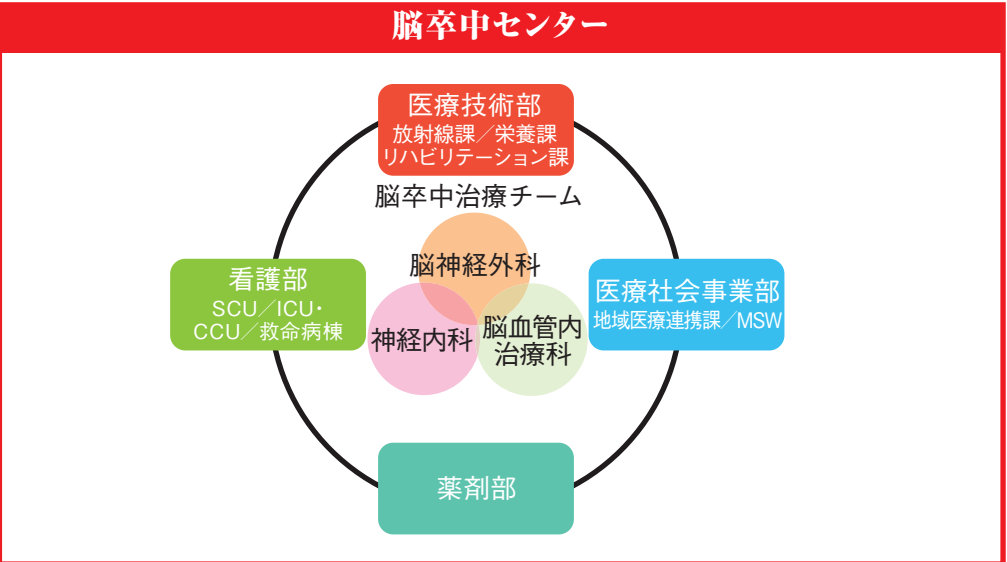


脳卒中治療のさらなる充実を目指して

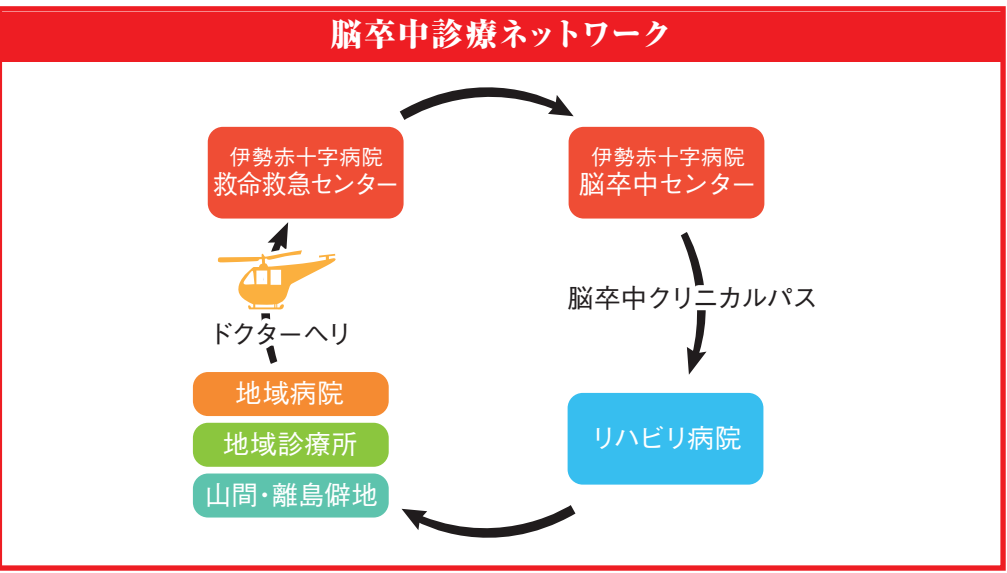
脳卒中は、日本では死因の第4位、寝たきりの原因の第1位を占め、重篤な後遺症により患者のみならず、支える家族にも負担が大きい疾患です。脳卒中診療は、1分1秒でも遅れば、患者の容体に大きな違いが出ることから、「スピードが命」といわれ、迅速な処置を実現する体制づくりが期待されています。当病院は、南勢地区の中核病院として365日24時間体制で急性期脳卒中患者の受け入れを行っていましたが、脳卒中治療のさらなる充実を目指し、新たに、脳卒中センターを開設しました。

脳卒中センターでは必要に応じて、CT、MRI、脳血管撮影検査、脳血管内治療(カテーテルを血管内に進入させて病気に介入する治療)、脳神経外科手術を行います。手術室内には磁気共鳴画像検査機器(MRI)が設置され、手術中に撮影することで正確な情報を獲得できる設備が整っています。

治療後については三重県脳卒中医療連携を利用し、回復期リハビリ病院への転院を進め、リハビリテーションの継続性を確保し、活動性の向上を目指しています。



脳神経外科・脳血管内治療科・神経内科の脳卒中治療に専門性のある医師が、垣根なく一つのチームをつかって迅速に診療を行うほか、看護部、放射線技師、リハビリテーション療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士などの多職種のスタッフを結集した体制を構築し、運営を行っています。



地域の病院と連携し、治療の継続性を高めます

チーム力で24時間いつでも安心して 入院できる病棟を目指します。

救命病棟

対象:全科 病床数:30床(重症個室6床含む)
スタッフ数:看護師長1名、看護係長3名、
看護師41名、看護助手5名(H26.5.1現在)



看護師長:中野 幸子

救急救命への 熱い思いを一つに。

救命病棟は、緊急に治療を必要とする患者さんが入院されるところです。入院される患者さんやそのご家族にとっては突然の発症であり、心肺停止、脳血管障害、呼吸器疾患、循環器疾患、外傷など命の危機に直面し精神的動揺も大きいものです。救命病棟では患者さんとそのご家族の気持ちに寄り添った看護を提供し、少しでも安心して入院していただけることを目指しています。

救急の現場は“命を救う”という使命から緊張度の高い職場ですが、救急救命への熱い思いをもったスタッフがチームワークよく働いています。



1年目看護師:亀田 美穂

救命病棟は、学生時代習ったこと、経験したことよりも、もっと勉強することがいっぱい毎日努力の日々です。私の取り柄は元気なことです。私の元気を患者さんに届けられるように毎日笑顔で仕事をしたいと思います。そして、患者さんやご家族の気持ちに寄り添える看護師になりたいと思っています。

救急という性質上、患者さん及び家族の方は、突然の病気またはケガで不安や苛立ちを抱えている事が多いと感じます。そんな患者さんやご家族の気持ちに配慮した看護ができるようにしたいと思います。



4年目看護師:久保 拓也



新入社員入社式 希望に燃える若い力を迎えて

平成26年4月1日、新入職者113名の入社式が行われました。新生活のスタートとなり、不安、緊張…それぞれ抱くものはあると思いますが、いちばんは「やる気」でしょう！一週間の研修を終え、さっそく各部署への配属となり先輩職員と力を合わせて頑張っています。



先輩 & 新人

伊勢赤十字病院職員は、患者さんに優しく安全な医療を提供できるよう支え合いながら日々全力を尽くしています！
顔を見かけましたら、お声をかけていただけると励みになります！

リハビリテーション課



6年目：千住 雄一

患者さまの機能回復させることはもちろんのこと、1つ1つを丁寧に思いやりのある理学療法士になってください。



新人：川端 佑果

いつも丁寧なご指導ありがとうございます。早く千住先生に追いつけるよう、頑張ります。

放射線技術課



6年目：大岩 沙紀

これからたくさんのことを学んで、元気いっぱいの素敵な放射線技師になって下さい！1人で頑張らず、周りの先輩たちにも頼ってね！



新人：後藤 咲月

先輩方に教えて頂いたことを生かして、患者さんに感謝されるような放射線技師を目指して頑張っていきたいと思います。

臨床工学課



8年目：井口 亮介

入職おめでとうございます。男性ばかりの職場で大変だと思いますが、たよになる女性の先輩方がいますので、彼女達のような立派なMEを目指して頑張ってください。



新人：中埜 瑠香

いつもわかりやすいご指導ありがとうございます。知識も判断力もまだまだ未熟で頭の回転も遅いですが、早く井口さんに近づけるように頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いします。

薬剤部



3年目：世古口 拓也

入社したては何かと覚えることや気を遣うことが多く大変だと思います。少しずつ仕事の優先順位がついてくると、余裕ができて仕事の楽しさが見えてくるのではないのでしょうか。僕も勉強中の身です。互いに支えあいながら楽しく仕事していきましょう。



新人：藤井 亮佑

実務実習でもお世話になった憧れの伊勢赤十字病院に入職することができました。これからご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、1日も早く患者さまの力になれるよう日々努力していきたいと思っています。

臨床検査課



6年目：谷 佳織

検査の件数も種類も多いから、大変だけど頑張ってるね！



新人：東 咲希

先輩方を見習って頑張ります！よろしくお願いします。

看護師(4Y病棟)



4年目：西川 瑞紀

4月から1ヶ月経ち、徐々に病棟にもなじんでいるように感じます。業務内容や病態、看護技術など覚えることがたくさんあって大変だと思いますが、一緒に成長できるように頑張りたいです。



新人：木下 ひかる

先輩の優しく的確な指導のもと自分にもできることが増えているのを実感でき、嬉しく思います。これからも、まだまだたくさん覚えたり経験したりすることがあると思うので毎日を大切に全力で頑張ろうと思います。今後ご指導よろしくお願いします。



国際医療支援の架け橋に…
ウガンダ北部の医療支援に看護師派遣

日本赤十字社とウガンダ赤十字社で実施する「ウガンダ北部医療支援事業」に、当病院看護師長の東恵理を派遣しました。派遣先はウガンダ共和国北部のアンボロソリ医師記念病院で、期間は約5カ月間。活動内容は、人口80万人をカバーする351床の同病院で、外科病棟や手術室で看護師の指導や助言、新築される手術室の立ち上げ支援などを行う予定です。

ウガンダ共和国は2008年の内戦終了後、紛争からの復興、開発段階にあり、医師・看護師不足のため十分な医療サービスが提供できない状態にありました。日本赤十字社ではウガンダ赤十字社との協議により、2010年4月から医療人材の確保と医療サービスの改善を目的として、継続的な医療支援を行ってきました。東看護師長は2010年に発災したハイチ大地震の影響によるコレラ対策活動に参加した経験があり、2回目の国際医療支援への派遣となります。5月2日の壮行会では、現地での無事と活躍を期待し、院長から伊勢神宮のお守りが贈られ、東看護師長は「自分のこれまでの経験を生かし、力を尽くしたい」と活動への意気込みを話しました。

看護の異文化交流を実践 ケント州立大学看護学部の教員と学生が当病院を見学



異なる文化の国の看護を学ぶことを目的に、アメリカ合衆国オハイオ州にあるケント州立大学の教員4名と学生8名が来日し、2月19日、当病院を見学しました。施設内の見学のほか、新人看護師も参加してのディスカッションを行うなど、日本とアメリカの医療の情報交換を行いました。最後に、ケント州立大学の責任者であるDr. Mary Lou Ferrantoから「歓迎の心遣い・雰囲気を感じられ、とてもうれしかった。きっとそういった精神で看護を実践されているのでしょう」と感謝の意を述べられました。



安心安全な地域医療供給の環境づくりが評価
「医療福祉建築賞2013」受賞

当院は、地域完結型医療における急性期入院医療・救急医療の担い手として、安心安全な医療を安定的に供給するための環境づくりに取り組んできました。新病院の建築にあたっては《患者の満足⇄職員の満足》との考えから「スタッフにも優しい病院」をコンセプトにしました。また、伊勢の土地に根付いて一世紀以上の歴史を持つ当病院としては、地域との調和を重んじ、神宮を敬い高層建築を自粛してきた地域の精神を尊び、伊勢ならではの低層建築を目指しました。この2つの大方針に基づき、オンとオフを明確化した空間の形成や機能集約化による円滑な共同スペースが創出され、世界に例のない1フロア8看護単位の病棟や、その中心部に3層吹き抜けのスタッフゾーン「オープンカンファレンス」を配するなど、独創的な病院が完成。これらの取り組みが評価され、JIHa（日本医療福祉建築協会）が主催する医療福祉建築賞2013を受賞しました。4月25日に、東京都港区建築ホールにて、同協会会長より表彰状と銘板を村林院長が受け取りました。職員一同、この賞に恥じないよう、地域医療の確保に尽力しなければと、改めて身を引き締めました。

医学生に当院の魅力をアピール 三重県病院合同説明会に参加



3月21日、メッセウイング・みえにて三重県研修病院合同説明会が開催されました。三重県内の研修病院による初期研修及び後期研修（専門医研修）の募集案内で県内24病院が参加。当病院のブースには内科系・外科系の医師、後期研修医と研修医が待機し、訪れる医学生の皆さんに当院の魅力や研修について説明を行いました。医学生の皆さんは、スーツ姿でやや緊張気味でしたが、研修医や上級医の気さくな対応に緊張がほぐれ、いろいろな質問も返してくれました。初期研修、後期研修に選ばれる病院となるために、研修環境のさらなる改善に努力していきたいと思っています。



子どもたちの医療への興味を促進 三重県で初の「ブラック・ ジャックセミナー」開催

3月15日、中学生が最新医療機器を使った模擬手術などを体験する「ブラック・ジャックセミナー」を開催。ブラック・ジャックセミナーは、ジョンソン・エンド・ジョンソンが社会貢献活動の一環として開催しているもので、子どもに医療への関心を深めてもらおうと、有名医療マンガの「ブラック・ジャック」にちなんで各地の病院と連携して開催しています。三重県で初となる今回は、伊勢市内外の中学生32人が参加。医師・研修医の指導で、超音波を用いたメスで鶏肉を切ったり、胃や大腸の手術で使う自動縫合器を使ったり、内視鏡手術のコーナーでは、モニターを見ながらでビーズや輪ゴムをつまんで動かす体験をしました。また、心肺蘇生法、AEDの使用方法を学んだり、普段は見ることのできない手術室の見学も行いました。



最先端の再生医療研究を紹介 理研の高橋先生が網膜再生の 研究について講演

5月21日、本年度の公開講座「赤十字健康大学」が始まり、初回は理化学研究所プロジェクトリーダーの高橋政代先生に再生医療の研究について講演していただきました。高橋先生は理研の発生・再生化学総合研究センター（神戸市）で、目の疾患に人工多能性幹細胞（iPS細胞）を使った世界初の研究を進めています。高橋先生は網膜の再生医療の現状を紹介し、「治療はリハビリと合わせて長い時間をかけて効果が出てくるもので、育てる医療と考えて見守ってほしい」と話しました。



万が一の災害に備えて 赤十字救護班要員任命式を開催

日本赤十字社は、災害時に備えて赤十字病院の医師、看護師などを中心に赤十字救護班（1班あたり医師・看護師主事6名）を編成しています。災害発生時には、ただちに派遣され、医療救護所の設置、被災現場や避難所での診療などを行い、被災者の救護にあたります。東日本大震災の際には、三重県支部は、栃木県大田原市や宮城県石巻市に救護班11班を派遣。平成26年度においても、大規模災害発生時に迅速かつ機動的な救護活動ができるよう常備救護班を当病院に8班、三重県赤十字血液センターに1班編成し、災害救護体制を強化しています。5月9日、その任務にあたる救護班要員の任命式が開催されました。



地域に根ざす一人として 環境美化活動の実施

当病院では、平成26年5月17日を「病院美化日」とし、「地域愛に満ちたひとづくり」をスローガンとして、病院敷地並びに周辺の清掃活動を行いました。職員一人一人の手で身近な場所から美化活動を通して、地域の皆さんへの感謝の心や地域愛を育み、親しみのある病院として、これからも伊勢の町の地域医療を守ってきたいという想い、また、職員にとっては勤務先の病院への愛着も育んでいきたいという想いから今回の活動を実施しました。



がん研究支援のネットワークづくり 第20回 EKIDEN for LIFE （生命の駅伝）に参加

三重県ではがん医療の中核病院として三重大学附属病院が機能し、全がんに対する予防・診断・治療技術を持った多くの専門家が在籍しています。しかし、総合がんセンターを有する地方自治体に比べるとまだまだ体制的にも不備があることは否めません。それゆえ、三重大学を中核としたがん医療センター構想の実現のため、20年前から、広く募金を募り、がん研究を支援する啓発活動「生命の駅伝」が継続して実施されています。今年は5月16日から25日の期間で行なわれ、23日、伊勢赤十字病院に立ち寄られました。

